

3 サル対策の追い払い技術



人による追い払い

- サルを見たら、必ず追い払います。
- 集落みんなで追い払うことが大切です(1人よりも多人数の方が効果的)。
- ロケット花火はサルに向けて発射するようにします。
- 山火事、怪我の無いように注意しましょう。
- 電動エアガン・パチンコ等も併用するとより効果的です。

- 農作物を加害しているときだけでなく、**集落のどこにいても追い払う**ようにします。
- サルがどっちへ逃げたか、**情報共有**できるようにしておきましょう。子供からお年寄りまで、サルを見たら誰でも追い払うことが出来るようにみんなで練習しておきましょう。
- 徹底したサルへの嫌がらせにより、**人里が危険な場所・居心地の悪い場所と認識させる**ことが大切です。



モンキードッグ

- 野生のサルを追い払うように訓練を受けた犬です。
- 平常時は飼い主と散歩するなどして周辺地域をパトロールし、サルが現れた場合は、リードを放して群れを追いかけさせます。
- 人では追いかけきれない場所でも対応できます。
- しかし、モンキードッグとして放すことが出来るようになるには訓練所でモンキードッグとしての訓練を受けた後、県の認定が必要です。また、地域への周知と理解が必要ですので、集落で話し合って導入しましょう。



県認定のチョッキを着た
モンキードッグ



サルが出る
と吠えて知ら
せます。

毎晩の散歩
が日課

小畑の集落を守る「ラン」

今は集落のみんなから感謝されています



昼は電動ガン
を持って圃場へ

電動ガンを見る
だけで逃げる

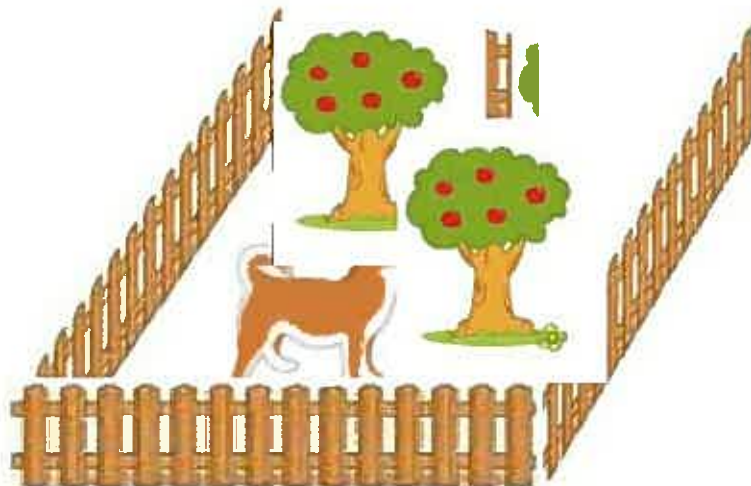


東栄町に10月に入ったばかりの「ブルー」



自家製モンキードッグ

- 認定されたモンキードッグ以外は放すことはできませんが、**柵などで囲まれた敷地内では放し飼いが出来ます。**
- 果樹農家などで、農地をワイヤーメッシュなどの柵で囲い、飼育犬を放しておくことで農作物をサルから守ることが出来ます。水や日よけを忘れずに。
- 犬を紐で縛っておくだけではサルは見抜いて被害をもたらします。囲った中に放しておくことがポイントです。



ブドウ畑15aをワイヤーマッシュで全て囲う



イノシシ対策にもなります。ハクビシンは防げません。

年	方法	被害
H21年	犬を繋ぐ	14/15a 犬の上以外全て
H22年	囲って犬放す	無し



2011.10.20

駐在犬システム

三重県が考案した
果樹園や畑の周り
を犬が走ってサル
を追い払う

日本農業新聞

「犬のおまわりさん」の発想を紹介する日ロ合展



猿害防止に「犬のおまわりさん」

三重県農業研究所紀南果樹研究室は、果樹園や野菜畑の周りに犬を走らせて猿の被害を防ぐ装置「駐在犬システム」犬のおまわりさん」を開発した。園地や畑の外周の四隅などに、溶接金網（ワイヤメッシュ）を張った柵をいくつか内側に向けて立て掛け、その外側に鋼線を1本巡らせる。鋼線に犬を鎖でつなぐと自由に周遊し、侵入しようとする猿を追い払う仕組みだ。
(菅野有花)

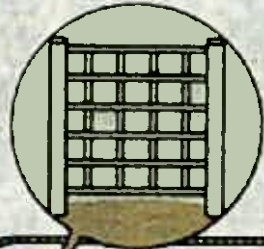
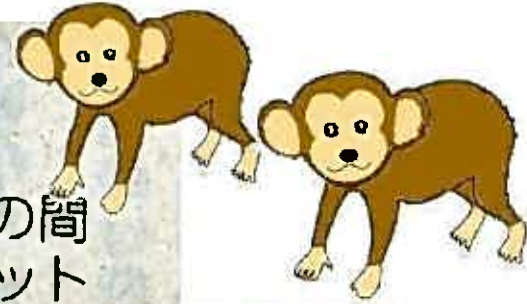
三重県紀南果樹研究室

鋼線に沿って

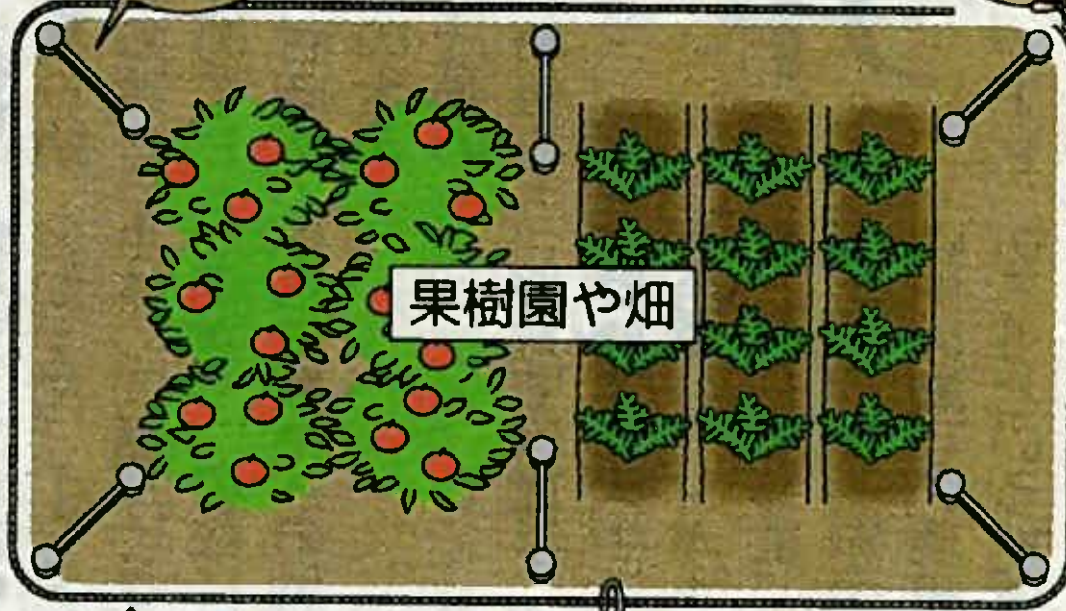
中型以上

猿の追い払いには、訓練機関で訓練を受けさせた犬（モンキードッグ）を園地に放す方法が知ら
すぐ実践に入れる。犬種によらず、猿の威嚇にもおびえない中型以上（体重15kg以上）の犬であれ

「駐在犬システム」の概略

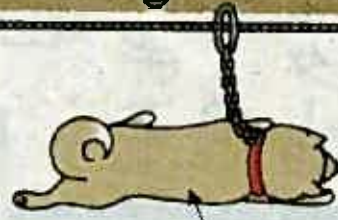


両側にくいを立ててその間にワイヤメッシュかネットを張ったもの



↑
鋼線

鎖をリングで
鋼線につなぐ



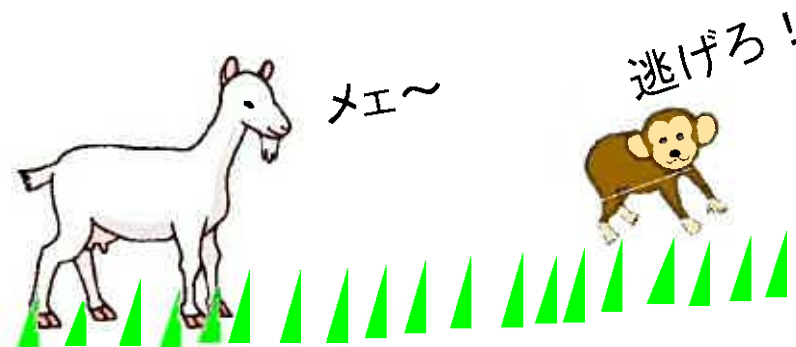
畑を上から見た図

犬



ヤギ

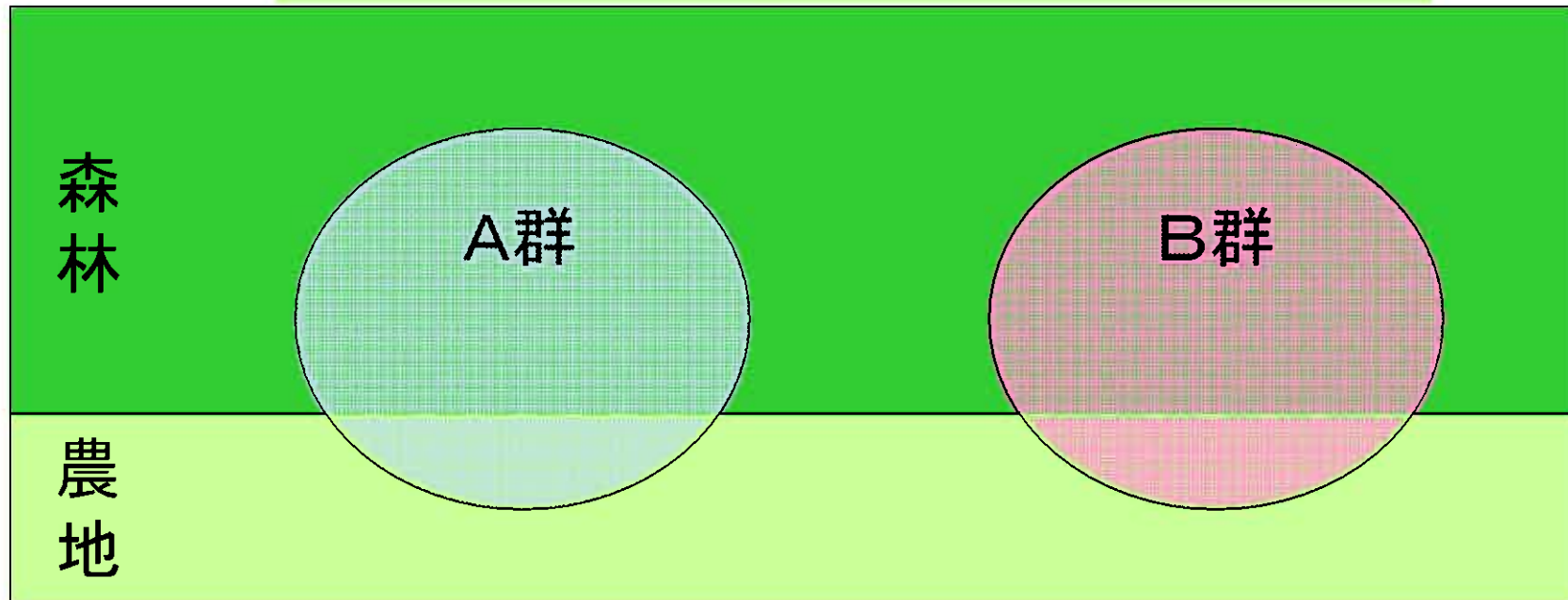
- 緩衝帯や耕作放棄地の草管理とサル対策の一石二鳥をねらってヤギを使う方法です。
- ヤギは好奇心旺盛でサルが来ると、じっとサルをみつめたり、寄っていきますので、サルが嫌がります。
- 放牧する場合は逃げられないように気をつけましょう。また、紐で縛っておく場合は紐に絡まりやすいので、絡まらないような工夫が必要です。





捕獲

分裂させないで個体数を調整する
(群れサイズ管理)



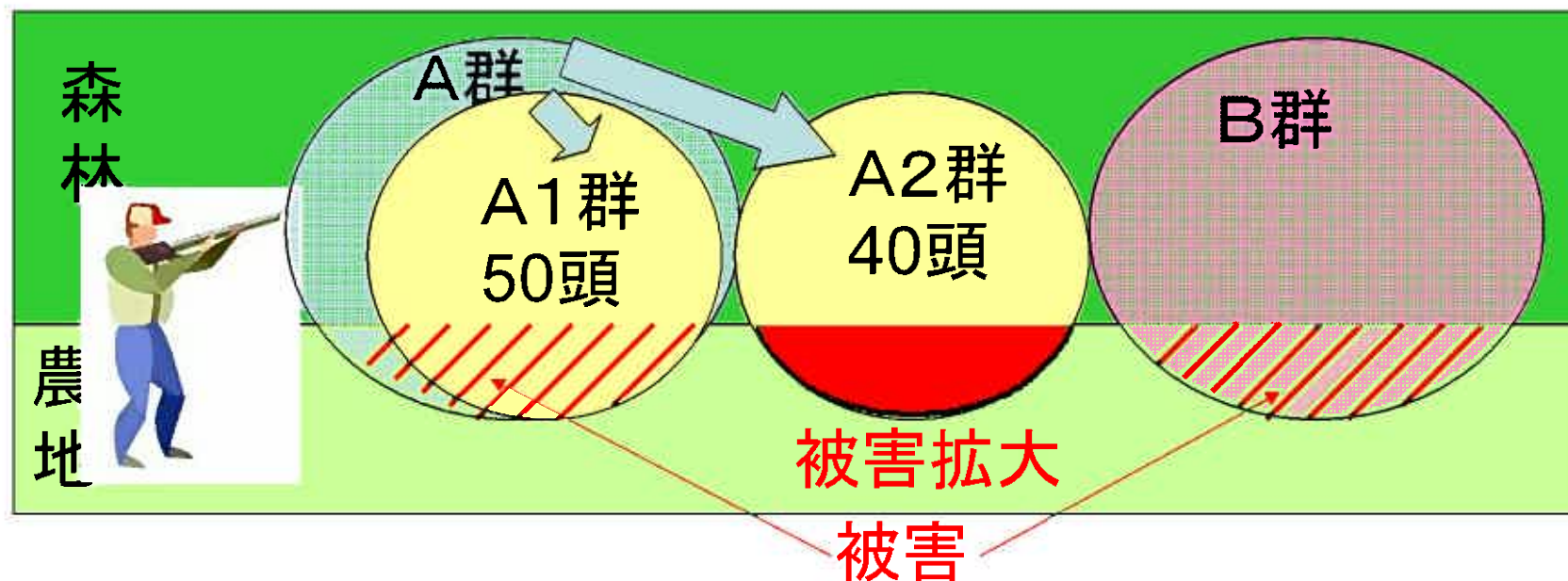
③適切に捕獲する

群れの分裂による分布拡大

サルは群れで動き、行動域が決まっている

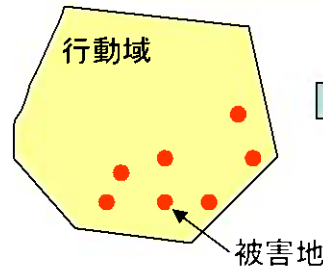
群れはMAX150頭

むやみな駆除 → 群れが分裂 → 被害が拡大する
10頭射殺 50頭・40頭 むやみな駆除はダメ

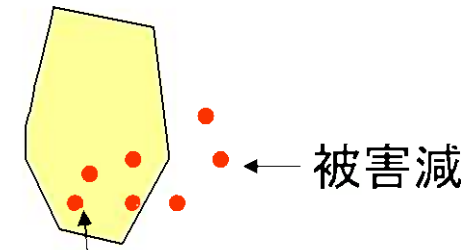


群馬県下仁田群

2002年
約130頭



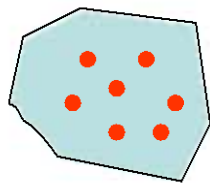
2007年
約60頭



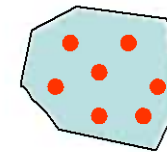
個体数減、行動域縮小、被害減、一部被害まだ出る

群馬県大牛群

2002年
約70頭



2007年
約30頭



個体数減、行動域縮小、被害減少していない

群れや地域によっては捕獲だけでは被害を減らせない